



人とともに 地域とともに

国立大学法人

島根大学

令和 4 年 8 月 8 日

報道機関 各位

## Bangladesh の若手研究者、島根大学で最新の養液栽培を学ぶ

～日本の技術で安全な農作物栽培と貧困農家の所得向上を目指す～

### ◆本件の概要

島根大学生物資源科学部では、8月16日(火)～19日(金)、Bangladesh 国立農業研究所から若手研究者 6 名を招き、養液栽培の技術研修を行います。

土を使わない養液栽培は、環境にやさしく安全な農作物の生産方法として近年注目を集めており、本学部では培養液の繰り返し利用を可能にする「養液栽培用電気分解装置」、カリウム摂取制限を受ける方向けの「透析患者用低カリウムメロン」など、最新の養液栽培技術の研究開発を行っています。

研修を通じて若手研究者たちは、農作物の養液栽培の基礎から果物・野菜などの養液栽培を習得します。

帰国後は、Bangladesh 版養液栽培の研究開発と普及に努め、安全な食料生産と貧困農家の所得向上を目指します。

■ 研修内容・日程などは添付資料をご確認ください。 ■

### ◆本件の連絡先 ※[at]は@に置き換えてください

島根大学 生物資源科学部 農林生産学科 教授・浅尾 俊樹(あさお としき)

Mail: asao[at]life.shimane-u.ac.jp

島根大学 企画部 企画広報課 広報グループ

TEL:0852-32-6603 Mail: gad-koho[at]office.shimane-u.ac.jp



【添付資料: あり( 3 枚) なし】

## <取材のお願い>

2022年8月8日

島根大学

JST さくらサイエンスプログラム推進本部

### Bangladesh の若手研究者、島根大学で最新の養液栽培を学ぶ ～日本の技術で安全な農作物栽培と貧困農家の所得向上を目指す～

島根大学生物資源科学部では8月16日(火)～19日(金)、Bangladesh 国立農業研究所から若手研究者6名を招き、養液栽培の技術研修を行います。土を使わない養液栽培は環境にやさしく安全な農作物の生産方法として近年注目を集めており、本学部では培養液の繰り返し利用を可能にする「養液栽培用電気分解装置」や、カリウム摂取制限を受ける方向けの「透析患者用低カリウムメロン」など、最新の養液栽培技術の研究開発を行っています。

島根大学・施設園芸学研究室(浅尾俊樹教授)

<https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/horticulture/products/pg90.html>



一方、Bangladesh は面積が日本の4割、人口は1億6千万人を超え、人口の約40%が農業に従事していますが、そのほとんどが稲作を行う小規模な貧困農家です。また高収穫量を求めて今まで化学肥料や殺虫剤を多用してきたため、土壌の環境汚染や残留農薬により農作物の品質低下を招き、特にトマトなどの野菜生産は困難な状況となっています。

今回の研修は科学技術振興機構(JST)主催の「国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)」\*に採択されたもので、2018年度から4回目の実施となります(去年はオンライン実施)。研修を通じて若手研究者たちは、農作物の養液栽培の基礎から果物、野菜などの養液栽培を習得し、帰国後はBangladesh 版養液栽培の研究開発と普及に努め、安全な食料生産と貧困農家の所得向上を目指します。

島根大学での研修の様子(島根大学 HP)

2018年度実施

<https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2018101500037/>

2019年度実施

<https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2019110700050/>

2021年度実施

<https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2022030900035/>

▼2018年度



▼2019年度



▼2021年度



### Bangladeshでの養液栽培(さくらサイエンスプログラムの成果)

今までのさくらサイエンスプログラムの成果として Bangladeshでは Bangladesh版養液栽培システムを開発し、研究所内で養液栽培の試みが実施され、レタス、イチゴ、トマトなどの栽培が可能になりました。



現在の Bangladesh国立農業研究所での養液栽培研究の様子

つきましてはご多忙中とは存じますが、研修や農業関係者・学生との交流の様子などを取材して頂きたいお願いも申し上げます。なお、研修時のご取材のほか、参加者をはじめ、浅尾教授へのインタビュー取材もアレンジが可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。

#### 【実施内容】

- 養液栽培の基礎技術とその応用と実用化について実習を中心に学んでもらう。
- 1)養液栽培の基本的な概要、2)培養液の作成と管理方法、3)トマト、メロンの養液栽培、4)人工光型植物工場におけるレタス、イチゴの養液栽培、5) Bangladeshでの養液栽培などについて研修を深める。
- 島根県農業技術センターで、その取り組みと地域農業生産者向けの農業技術を研修すると共に、自分たちと同様な立場の研究者の活動を視察。養液栽培を生産者に普及する課題などを話し合う。
- 学生との交流を図ることで、今後、若手研究者同士の交流、そして、日本と Bangladeshとの交流に繋げていく。

## 【研修日程概要】

8月16日(火) 午後:島根大学、松江城視察

8月17日(水) 午前:島根大学本庄総合農場視察、講義「養液栽培の概要と培養液」

実習「培養液作成」

午後:講義「葉菜類の養液栽培、低カリウムメロン生産」

実習「植物体、培養液の分析」

8月18日(木) 午前:島根県農業技術センター視察

午後:出雲大社、日本庭園見学

8月19日(金) 午前:講義「人工光型植物工場」

実習「人工光型植物工場におけるレタス、イチゴの栽培」

午後:帰国

\* 「国際青少年サイエンス 交流事業 (さくらサイエンスプログラム)」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。



---

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

島根大学生物資源科学部・教授・浅尾俊樹

Eメール: [asao\[at\]life.shimane-u.ac.jp](mailto:asao[at]life.shimane-u.ac.jp)

島根大学 企画部 企画広報課 広報グループ

TEL: 0852-32-6603 Eメール: [gad-koho\[at\]office.shimane-u.ac.jp](mailto:gad-koho[at]office.shimane-u.ac.jp)

■国際青少年サイエンス 交流事業 (さくらサイエンスプログラム) に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

電話: 03-5214-8288 Eメール: [ssp.press\[at\]jst.go.jp](mailto:ssp.press[at]jst.go.jp) (担当: 田中禎人、太田悦世)